2026年度 勤務医･看護職を含む医療従事者負担軽減委員会（案）

Ⅱ　勤務医･看護職･医療従事者負担軽減委員会の目的

勤務医・看護職・医療従事者の業務負担を軽減させるため、システム導入等を行い業務効率化と生産性向上を図る。勤務医・看護職・医療従事者の定着と採用による人員の増加を図り、地域医療を守り継続できるようにすることを目的とする。

Ⅲ　勤務医･看護職を含む医療従事者の負担軽減の為の施策

1　委員会の設置

委員長　副院長　　副委員長　看護部代表　　管理者　院長（参加頻度：1回/年）

委　員　副院長　看護部長　検査科代表　薬剤科代表　放射線科代表　栄養科代表　リハ科代表　医療支援部代表　臨床工学科代表

経営企画課長　医事課課長補佐　総務課　(※討議内容に応じその他必要な職員が参加可能とする。)

2　勤務医･看護職を含む医療従事者負担軽減計画(2026年度計画)

対策項目	目　標	具体的内容	計画進捗状況等			
			2026.6	2026.9	2026.12	2027.3
(1) 勤務医の勤務時間及び在院時間管理	実態を把握し、勤務時間の軽減に努め、適切に管理を行う	① 常勤医師の労務管理（有休・遅刻・早退・時間外労働）				
		② 勤怠管理システムの整備・研鑽業務の明確化				
(2) 医師･看護師等の業務分担及び業務の移管を推進	業務内容・勤務体制を見直し、業務の移管を推進し、効率化に繋げる	① 医師事務作業補助者の増員 3名維持しつつ増員を計画する				
		② 他職種との業務分担見直し（看護部･薬剤科･検査科･放射線科･リハ科･臨床工学科・栄養科）	看護職員負担軽減計画参照			
		③ 医療支援部入退院支援室 1.5名配置(看護師)による入院支援業務の実施				
		④ 看護補助者の配置（看護補助体制充実加算維持）				
		⑤ 総合案内看護職１名配置				
		⑥ 看護部人員不足の改善				
		⑦ 特定行為研修終了看護師の育成（医師行為の代行）				
(3) 紹介患者の増加と地域連携の推進	紹介患者 月平均75人以上	① 紹介患者の増加				
	きびたん加入者 45人目標	② ICT・きびたんネットの利用促進による近隣診療所との連携				
(4) 常勤医師･非常勤医師の確保	常勤医師 12人(非常勤除く)	常勤医師 13人確保				
(5) 医師勤務体制等に係る取組	医師の健康やWLBの確保、医療の質･安全の向上	① 予定手術前日の日直や夜勤に対する配慮				
		② 連続当直を行わない勤務体制の実施				
		③ 時間外に緊急ではない患者の病状説明等の対応を行わない				
		④ 短時間正規雇用医師の活用				
(6) システム導入による業務効率化 生産性向上	業務効率化・生産性向上	① システム導入	別紙参照			
		② 補助機器導入				

3　対策達成の評価と見直し

(1)対策の評価は年3回、対策チームが行い、医師、看護職員、医療技術職員等の職員に報告する。

(2)対策チームは評価と共に対策を再検討し、その実施に努める。

2026年3月13日

2026年度　公益財団法人会田病院　看護職員　負担軽減計画

対策項目	目　　標	具体的内容	実施予定	計画実施予定時期・評価時期 等				
				2026.4	2026.6	2026.9	2026.12	2027.3
（1）看護師等の業務内容分担 業務内容見直し推進	薬剤科	1.薬剤師によるＩＶＨ薬剤の調剤 →日曜・祭日・特休時以外の月～土曜日の 6日間のみ実施（日・祭日の検討） →人員が確保出来れば上記日以外にも調剤が可能 2.内服薬、薬剤関係の運搬（出来る内容で） 3.薬剤師病棟一部配置 → 4病棟から実施 （病棟配置薬の管理・薬剤関係リスク管理の検討 持参薬の管理、効果副作用などの確認） ・点滴（末梢）の確認と混注 ・内服薬のセット管理 4.3・5・6病棟薬剤師配置	2026年 (3~5年間)					
	検査科	1.眼科、婦人科、泌尿器科の検査機器の管理 2.外来の検査伝票（病理細胞診の報告書）貼付を継続 3.朝の検査物の回収 4.検査の説明（全員研修するには時間が必要） 5.新型インフルエンザ流行感染症等検体採取の実施及び補助 6.外来採血　→ 週4回（月～木）実施 → 金曜日は眼科へ1名配置 7.検査時の送迎（患者の状態次第） 8.自己血貯血時補助	2026年 (3~5年間)					
	放射線科	1.検査時の送迎（患者の状態次第） 2.中央受付周辺で患者への案内 3.撮影時の患者送迎、撮影後画像を確認し、 即主治医に報告できる体制 4.画像の見方勉強会（月１回程度）	2026年					
	リハビリ科	1.リハビリ患者の送迎 2.言語聴覚士によるリハビリ中の吸引（口腔内のみ） → リハビリ職種全員に吸引の研修会を実施 3.回復期リハ早番遅番の導入	2026年 (1~3年間)					
	臨床工学技科	1.レスピレーター、輸液ポンプの中央管理チェック 2.透析患者送迎（病棟から） 3.手術室へ配置(今後麻酔器の管理を行う)ME2名配置 4.病棟配置（4病棟へ） 5.看護師へのレスピ管理指導 6.臨床工学士の業務範囲の拡大（OP室静脈確保、OP室での内視鏡カメラ持ちができる）	2026年 (1~3年間)					

作成日：2026年3月13日

2026年度　公益財団法人会田病院　看護職員　負担軽減計画

対策項目	目　　標	具体的内容	実施予定	計画実施予定時期・評価時期 等				
				2026.4	2026.6	2026.9	2026.12	2027.3
	栄養科	1.経管栄養の時間外入力の返品・払い出し 日曜・祭日以外で月～土曜日（AM）の管理栄養士勤務 時間で対応 2.食事オーダー入力（できる内容に限り） 3~6病棟で実施 日祭日以外月～土曜日（AM）の管理栄養士勤務 時間で対応	2026年 (1~3年間)					
(2) 入退院時の業務分担	入退院支援室 看護師２名体制	1.チェックリストに沿った入退院支援の実施 2.入退院調整、ベッドコントロール、退院支援の充実 （在院日数の減少を目指して） 3.入院患者の病棟への案内 4.入院時にオリエンテーション、 データベース入力、家族への説明と書類作成 5.退院後訪問指導 6.退院時カンファレンスへの参加	2026年 (1年間)					
(3) 前方連携の強化 実施負担の軽減	医療支援部 社会福祉士4名	1.病病、病診連携の強化（増患） 2.入院判定会議への介入 3.役割分担、マニュアル整備 4.人員確保	2026年 (1~3年間)					
(4) 看護補助者の業務改善 看護事務業務の改善	看護補助者の 配置	1.夜間看護補助体制加算 継続維持 2.協働の推進 3.看護補助体制充実加算維持	2026年					
(5) 増員及び勤務体制 の改善	総合案内看護師 配置	1.総合案内0.5名配置 外来混雑時の対応、感染症患者のトリアージで 事務部、コメディカルからの応援体制の確保	2026年					
	人員不足の改善	1.看護協会夜勤のガイドラインに沿った勤務体制 →夜勤制限者を除き平均4回以内を維持 2.残業率を20%減の維持。（1人3時間の減） 3.OP室・透析・サプライ室へ職員配置　事務局配置	2026年 (1~3年間)					
(6) 質改善 【医師行為代行】	専門看護師の 育成	1.特定看護師、認定看護師、呼吸療法士などの 専門看護師の育成 ・呼吸療法認定士による呼吸チームの充実（希望３名） ・特定行為看護師育成	2026年 (1~3年間)					

作成日：2026年3月13日